

くまざさ



修学旅行花盛り 釧中時代の夢を実現

戦中、戦後の混乱期に釧中時代を過ごした先輩たちは「青春」について、強い憧憬を持っている。「修学旅行」の経験を味わうことは、少しでもこの「青春」を持つという切なる心があるからである。今回は、卒業四十年を記念して、二月十六日に阿寒湖畔へ修学旅行（酒学旅行と酒落て）に出かけた釧中二十八期から寄稿をいただいたので掲載する。事務局にもたらされたところでは、釧中二十六期、二十七期がそれぞれ阿寒修学旅行。釧中三十二期（湖陵一期）卒業三十五周年記念伊豆箱根旅行。三十三期の東京熱海旅行など、正に修学旅行は花盛りといったところである。

私たち釧中第二十八期生が学舎を巣立ったのは、丁度四十年前の昭和二十年三月である。当時第二次世界大戦の末期で、戦況は日に日にわが国に不利となり、陰惨な日の連続であった。

湖陵五年間を顧りみると、同期生二百名と共に憧れの釧路中学校の門をくぐったのは、忘れもしない昭和十五年の春四月であった。憧れの「くまざさ」の徽章に白線二本の帽子はどんなに誇り高かったことだろう。何処へ行くにもこの帽子を手放すことはなかったのである。しかしそんな感傷とはうらはらに、不幸にして日中戦争は深みに入り、長くて暗い時代に突入していた。国家総動員のもとに軍事教練は強化され、勉強を放棄して白糖・標茶の軍馬補充部の草刈り、計根別・帯広の飛行場建設、そして十勝の援農や造船所作

業へと動員されていった。しかしそれなりに青春を謳歌したものである。一方、こうした時代背景のもとに「神州不滅」を信じて軍人に志願して自らの青春を絶つた友もいた。従って卒業間近になると同期生一同が顔を合せることは少く、況や修学旅行などは思いもよらないことであったのである。

しかし湖陵に学び得た同期生の誇りは高く絆は固く、毎年同期会を開催して旧交を温めていたが、期せずして卒業四十周年に当る今年の同期会には是非修学旅行をしたい、という議が起った。かくして傲を全国の友に飛ばしてその参加を呼びかけたのである。「修学旅行」―それは何と青春の息吹を響かせる言葉であろうか。



多い数ではないが、懐旧の一夜を同期生の大西君の経営する阿寒グランドホテルで過した。地元の名沢先生、それに札幌から角田、門脇、林の三先生も一緒にあった。四十年―正確には四十五年ぶりでお逢いしたが、駅頭では紛うことなくすぐ先生だと解った。四十年という歳月は、暗い中にも楽しかった釧中時代の青春を思い出させるに決して長い時の経過ではなかったのである。

この先生を囲み、痛飲して校歌を高唱し、応援歌を怒鳴った。確かにそれは「酒学旅行」であったかもしれないが、充たされなかった青春時代の爆発であった。限りなく還暦の齢に近づきながらこうした修学旅行を満喫し得たのは、わが母校湖陵が私たちの胸中に脈うっているからである。そして四十五周年、五十周年にもこの行事を継続するよう私たちの心をかりたてて止まないものがある。

(黒坂 博)

湖陵同窓会総会開く 600名参集

記念講演に釧中27期、ニュースキャスターの小松鍊平氏

昭和五十九年八月十二日(日)湖陵同窓会総会並びに懇親会が釧路商工会館を会場に約六〇〇名の会員を集めて盛會裡に行なわれた。

本年度は例年に比べ女性会員が特に多かったように記憶する。我々が先輩、今売れっ子のニュースキャスター小松鍊平氏の影響かな?などと思つてみたり……しかしいづれにしても喜ばしい現象であり六十年以降が非常に楽しみである。母親と子供がそろつて同窓会に参加し、あらゆる輩と心をつつにしてひとときを過ごすなどということ言葉ではいい表わされない程素晴らしいことだと思われなければならない。

さて、総会はいつ聞いても歯ぎ



れの良い、しかも年を取らない組村会長の挨拶に始まり安井中学校長のユーモアたっぷりな祝辞のあと、自他ともに認める大御所中村隆氏を議長に迎え議事に入った。

いつ見ても若くダンディーな遠藤幹事長から、事業報告、決算報告などがあり、さらに山本会計監査より監査報告があつてそれぞれ承認されたものである。

その後釧中二十七期の小松鍊平氏(テレビ朝日のニュースキャスターである)の「釧路ってなんだべ」と題し講演が行なわれた。講演内容は実に豊富で時が経つのも忘れて聞き入ってしまったものである。釧路を離れているにもかかわらず釧路の特性を良く理解しており、

我々に今後の研究課題を投げかける一幕もあつた。今、まさに日本中の話題を呼んでいる三浦事件、江崎グリコ事件など短い時間で具体的に解りやすくかいつまんで話しをしてくれる様はただただ感銘を受けさすが我が先輩と思わず自分の胸を張り「あれっ」と思つたりして……。

講演は万雷の拍手の中終了した。何か時間が足りなかつたような感じがしてならない。もし再度チャンスがあつたなら機会を改め是非講演会を企画してみたらなどと勝手な思いをめぐらす。今回忙がしい中小松鍊平氏の僅かな時間を割いて同窓会に花を添えて下さつた二十七期並びに幹事の方に厚くお礼申し上げたい。

度の熱演は見ていて思わずほがなごんでくるのを感じたものである。

時の経つのも忘れあつという間に閉会の運びとなつた。来年度の当番幹事はどうな趣向をこらしてくれるのか?今から非常に楽しみに六十年の総会である。

(関口副幹事)

昭和五十九年度 役員名簿

顧問	釧八	丹葉節郎
問	釧三	米富久司
〃	釧三	古谷武一
〃	釧六	坂下忠勝
〃	釧七	米沢悟空翁
〃	釧三	中村佳男
〃	釧三	田村真平
相談役	釧二	組内宏
会長	湖五	豊島弘道
副会長	湖五	徳島瑛子
〃	湖七	久本隼
〃	湖八	神本隆吉
〃	湖四	遠藤隆吉
幹事長	湖二	関口政司
副幹事長	湖三	関田征矢
〃	湖六	高島正和
〃	湖三	見田吉郎
〃	湖三	矢野幹夫
〃	湖六	山守生弘
会計監査	湖八	山本福

学園だより'84ことしの活動をふりがえる

三月とはいえ、まだまだ冷たい風の吹き抜ける今日此頃ですが、同窓生の皆様には益々御活躍のことと思います。本年度も残りひと月足らずとなりましたが、この一年間を締めくくるにあたり、在校生諸君の多岐に亘る活躍の一端を紹介したいと思います。

体育系クラブでは、野球部の春季大会での活躍が印象に鮮やかなところですが、その他陸上・羽



球・バスケット・体操・柔道・アイスホッケー・剣道・硬庭・弓道などが各種大会において全道大会出場を果たしました。中でも陸上部の菊池章泰(槍投げ三年)上村英樹(11Mハードル三年)が高体連全国大会に、番匠徹(走り幅跳び一年)が奈良国体に出場、活躍しました。また、男女ハンドボールは昨年に続き、今年三月名古屋で開かれる全国大会出場が決っています。

文化系クラブでは、合唱部が高文連全道大会優勝、今年八月盛岡での全国大会出場が決っています。また、器楽部も全道吹奏楽コンクール銀賞。全道アンサンブルコンクールでは菅野靖洋(金管の部二年)が金賞受賞したのは記憶に新しいところです。その他、放送局(高文連校内研究発表表地区優秀賞)美術部(全道学生展三名入賞)リコーダー(全日本リコーダーコンクール奨励賞)二年ぶりの新聞の発行など着実な活動を続けています。

また、先日は校内美術展、湖陵音楽祭が好評のうちに開催された

ところでです。

さて、この時期は大学の合格発表等が新聞紙上を賑わす時でもあります。今年の進路状況は別表の通りです。

進学希望者については昨年とほぼ同数ですが、今年の特徴として、ここ数年続いた国公立離れが落ち着いたこと、私立が全体的に難化し、国公立との併願が難しくなったため私立志願者が総体的に減少したこと、そして各種・専門学校志願者が倍増したことが挙げられています。詳細については進路指導部で検討中ですが、年々大学の門は狭くなり、受験生にとっては苦しい状況の続くことが予想されます。

一方、就職希望者はわずかながら増加。幸いにも本校ではほとんどの生徒が内定していますが、長びく不況のもと、求人数の減少などによって必ずしも希望通りの就職状況とはなっていないようです。

以上、雑駁ではありますが今年一年を振り返ってみました。最後に生徒達がよりすばらしい高校生

活を送り、より豊かな人生を切り拓いてくれることを願い、同窓生の皆様の御勉強、御援助をお願いして母校からの報告とします。

(湖陵高校教諭 末神 敏昭)



進路状況

	男	女	計
就職	12(10)	20(19)	32(29)
進学	257(269)	137(127)	394(396)
国公立	135	48	183(185)
私立	275	83	358(428)
国公立短	4	25	29(39)
私立短	0	99	99(111)
各種専門	23	69	92(51)

()内は昨年度

御卒業・御入学の喜びを1枚の写真に……

湖陵・江南・北陽・星園・短大高校他
市内小中学校卒業アルバム専属作成

株式会社 工藤写真館

工藤寿男(釧中26期)

釧路市南大通5-3-7 TEL 41-5751

駐車場(20台収容)完備

青春譜・湖陵ヶ丘

〈11〉



釧中32期 奥田達也

「市民運動会」

第一話、それは大正十年ころ。夏の短い釧路。早朝の花火の爆音に、隣が行けば、うちも出かける。どの運動会も超満員の賑わいぶりであった。

小学校の、又その連合運動会、大正四年に始まった釧中運動会。そして全市民参加の釧路観校大運動会。

当時は、市内の各企業が対抗して競技に熱中した。学校として、それに加わったのは釧中ただ一校。大人たちに混じって走るのである。

トラック競技の花リレー競走は団体の得点に一番影響するだけ観衆の力が入る種目だ。

スタートではビリケツの釧中選手。大人たちは自分の団体選手やトップ争いに注目して、どんじりの釧中生など眼中にない。その釧中選手に、だが、釧中応援団は失望しない。大きな期待が、痛快な

逆転劇への喜びが、胸中に秘められ「今か、今か」と待たれている。

ついに、リレーは最終ランナーの関野（のちの藤井）利光に、バトンが渡された。

「ワァー」という喚声が釧中の応援席に起きる。それは、こらえにこらえられた堪忍袋の緒の切れたように。

逆転劇の花・利光

美談とされたストーム

「何事が起ったか？」と釧中応援席へ観衆の目が注がれる。次いでゲームの続いているトラックへ目を移す。

これは凄い。遙かに引き離され、全く走る望みすら持てない、と思われた一番ビリに走っていた選手が、一人を素早い走りて抜く。その前の選手のわきを疾走する。次も、その次も前を走って

る選手を簡単に追い、そして抜いてゆく。

一番先頭を走っている大人の選手が「何を、この若僧！」とばかりに懸命の力走をする。だが実力の差は歴然であった。関野利光は、その大人をも抜いて、トップに立ち、遙か引き離して、ゴールのテープを切った。

あがる喚声。どよめく喚声。しばし市営グラウンドは、何も聞こえぬ騒音に包まれる。

このドラマチックな逆転劇リレー競走は、いつか市長大運動会の花となった。敵も味方もない。関野利光の抜群の速さに、全観衆の夢が、喜びが、期待があった。

まして仲間の釧中生としては誇りであった。

第二話、かつての栄光に輝いた藤井利光がシベリア抑留で歳より老けて帰国した二十一年に市民運動会が復活した。

その翌年、釧中生一千名は白シャツに制帽の質素な中学生らしい応援で、応援団第一位となっ

た。その運動会終了後、散らかった紙クズ、ゴミを拾い集め、グラウンドの中央に小山を作った。用意の灯油をかけて燃やす。火は観衆の散った野の空に炎を立てた。競技に疲れた選手も、応援に熱中した生徒も、原始人にかえった。

再び応援歌を謳い、その火のまわりを、肩を組み、腕を、手を握りあつてファイヤーストームに興じた。青春を感じた。

翌朝、大根田校長は手ぐすねをひいて待ちかまえる。

「応援団は良かった。選手も良かった。しかし、何事か、有終の美どころか、火を燃やし、騒ぎまわるとは」と説教するために。

もちろん主謀者のリーダー達は処罰を覚悟していた。

ところが、その朝、訓戒する朝礼の前に校長は道新記者の来訪を受けた。

「おたくの生徒さん方が、散らかったグラウンドを隅々まで清掃された。疲れ切った応援のあと、誠に現在の時世に、出来得ることではない美談です」と。

「日頃の指導があらわれたのです」と答える校長の心境は複雑であった。

朝礼の訓戒は、すぐさま賛辞と変わり、聞く生徒の心境もまた更に複雑となる。

また単純に喜ぶ下級生もいた。新聞に「釧中生の美談」として載ったことはいうまでもない。

坂上洋治事務所

所長 坂上洋治

釧路市材木町3番23号
電話 41-6079番

第3回卒業

株式会社 村上紙茶店

取締役 村上史郎

釧路市大町2丁目2番地
電話 41-5055番

第3回卒業



勤労働員

に明け暮れ

釧中二十八期 八幡弥平

昭和十五年（紀元二六〇〇年）四月、憧憬の熊笹の帽章に白線二本、脚にゲートル（脚絆）を巻いてはじめて釧中の校門をくぐった。校舎はオンボロ、廊下のところどころに出ている釘の頭につまづきながらも胸をときめかせ、A、B、C、Dの四クラスにわかれて入学式を待った。

二・五倍の高い率を通りぬけたきびしい入学式だった。女と言えば養護のおばさん先生と給仕のおねえちゃんだけ、あとは総べて男、男、男……。最上級の五年生の前を通る時には最敬礼して通してもらったものだ。

先生よりも上級生の方がオツカナかった。ひげ面、ニキビ面、ポロポロの帽子にヨレヨレの服、上靴などなく皆ハダシだった。

隣国、支那？との戦争はすでに始まっていた。

二年に進級した年の十二月、アメリカ、イギリスと戦争状態に入った。

三年に進級した六月、全員、白糖と標茶にあった軍馬補充部の幕

舎に狩り出され一ヶ月以上もの労働につかされた。計根別、帯広の飛行場造りにも動員され、太田村、十勝の鹿追、木野、中札内等の農家の手伝いもさせられた。十条製紙の粉炭運びもした。そして、牛の乳しぼり、馬車追ひ、鎌の砥ぎ方も覚え

た。

釧中五年制の最後は小生たち二十八期生で終止を打つ。卒業は終戦の年の三月である。

戦前、戦中、戦後と生き続け、釧中を去って丁度四十年還暦を間近にひかえ殆んど勉強らしい勉強もせず唯、高い授業料だけ納めて卒業した。

苦しい学生時代ではあったが悔いはない。

ただ、終戦間近に特攻隊、戦車隊、隊員として若き命を何の抵抗もなく敢然として捨て去った級友の死が悲涙として残る。

（釧路市立旭小学校 勤務）

わが青春は...



わが青春に悔なし

完全燃焼した三年間

湖陵十期 竹島俊夫

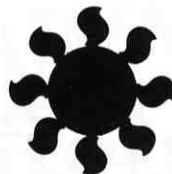
頑固一徹の国鉄マンの親父に引卒されて昭和三十年入学した。入学祝との事で、生まれて初めて一緒に洋画を観せられたが緊張で内容に記憶がない。親父が良くプレイしていた鉄道テニスコート前のオヤキ屋でオヤキを腹一杯食べさせられた。

寡然の中にも心から祝つてくれる親父の真情が伝つてきた。五人兄弟の中で最も愛情うすく育つたと思つていた私にとって強烈に親父を意識した日でもあった。一年B級は各中学校の先代会長が一同に集められたクラスで鬼の山根先生に鍛えられた。遅刻には厳格な先生で立たされ組の常連であった。入学と同時に芦田、内山先輩の率いる演劇部に籍をおき、秋に開催された高文連の全道大会（釧路公民館）で秋田雨雀作「永すぎた春」の主演に抜擢されて鈴木千枝子さん共々演技賞をいただいた。下校途中は中心地の「江戸っ子寿司」で毎日の様にアルバイトをやり、腹をへらした。

同級の悪童を連れて御勝手にコゲメシのニギリ飯をたらふく喰べさせた。店では赤い伴天・マメしほりの職人気取りで三年の頃には巻き寿司は元よりニギリまで覚えるまでになった。週の半分は職人達と一緒に泊まり寝物語で彼らの薄幸の生い立ちをきながら時として涙を流したものである。二年生時代には同級・演劇部・籠球部・中川塾・寿し屋・家庭と沢山の世界があった。更に三年では、生徒会の副会長をやるハメになった。顧問の男沢先生には大変御世話になり腹芸をご教示いただいたと思つている。中川塾頭には学校祭の審査委員長を御願いにお伺いした時に肝試しをさせられた。正座する間もなく本身を鼻先に構えられ吃驚するも空元気で正視する事暫し、生徒代表として用件を御願いしたところ快諾をいただき気の抜けた帰りにコメのジュースを腹一杯飲まされて千鳥足で帰ったエピソードがあった。

（帯広市 長谷川産業勤務）

太陽のように明るく暖かい
真心で良い品をより安く
ご奉仕するセオチェーン



セオ

営業品目

●食料品 ●日用品 ●衣料品 ●軽食堂

- 妹尾商店 釧路市新橋大通1丁目 ☎25-5345
- 新富士ストア 釧路市新富士駅前 ☎51-3467
- 愛国ストア 釧路市愛国37番地 ☎36-4295
- 白樺ストア 釧路市白樺台1丁目 ☎91-5423
- 昭園ストア 釧路市昭和190番地 ☎51-8853

組村会長、教育委員長に

教育長は梅山氏再任、委員には早坂氏が就任

われらが湖陵同窓会会長、組村真平氏が、去る昭和五十九年十月二十二日、午後から開かれた臨時教育委員会で、鉧路市教育委員会教育委員長に選出された。

同氏は、五十年三月から、教育委員を務めており、教育行政に対する識見が各方面から高く評価されていた。任期（一年。ただし、

再選可能。）いっぱい、鉧路市教育行政のトップとして、鉧路市教育の舵取り役に当たる。

同氏は、「多くの協力を得ながら、鉧路市の教育が充実したものとなるよう努力したい。教育内容については、価値感が多様化しており、対応は困難だが、充分、協議を尽くしながら、努力してい

く」と抱負を語っている。

この度の委員長人事は、これもわれらが大先輩の坂下忠勝前委員長の任期満了、勇退に伴って行われたもの。

なお、これに伴って、これまで鉧路市内の学校長を歴任、豊富な現場経験と卓抜した教育的識見を有する鉧中20期の早坂孝史氏が、

教育委員に就任した。

次いで、翌十二月二十二日の教育委員会で、同じく同窓、鉧中27期の梅山氏が、前回の北海道教育委員会の承認を経て、鉧路市教育委員会（三期目。任期四年。再選可能）に再任された。

なお、五十七年一月から、鉧中期の伊藤正司氏が委員として就任しているの、鉧路市教育委員五名のうち委員長、教育長を含めて、四名がわが同窓生。

息の合った、しかも新しい時代にふさわしいリードを期待したい。（藤原）

第五回同窓会主催教育講演会

本行寺住職 菅原 式也氏（鉧中二十七期）



上に「忠」の字を冠して受け取っていたこと。またその後軍人として人を殺す役割を果したことに触れ、その痛み故に現在の平和を願う心情を述べられました。

また、時代によつて様々なニュアンスで解釈された校訓の現代における意義に触れ、あらゆる事象に誠実さを持つて当り、人間を愛し、正義のある所勇氣を持つて実行することにある」と、鉧路非核宣言運動を推進している氏の面目躍動たるものがありました。

さらに、先輩達が、世界的規模で活躍していることに触れ、目の瑣末なことに拘泥せず、全人類的な発想を身につけ、おおらかに育つことを校訓「誠・愛・勇」は示唆してもいるのだと、在校を励ました。

（文責湖陵高校教諭富樫次雄）



梅山 源悦氏



早坂 孝史氏



組村 真平氏

第五回同窓会主催講演会は、本行寺住職菅原式也氏（鉧中二十七期）が「我が青春における誠愛勇」と題して、十月二十四日鉧路市公民館において、在校一年生四百四十人の心に訴え掛けました。戦中に鉧路中学に学んだ氏が、校訓「誠・愛・勇」のそれぞれの

面目躍動たるものがありました。



電算写植機設置により、より早く、より美しく



鉧路綜合印刷株式会社

085 鉧路市白金町19-2 TEL 23-9201(代)

FAX 23-9205

同期だより

湖陵高校 第六期会の巻

〈寄稿〉

十月十三日、三吉会館に於いて、四十三年より数えて、十七回目の同期会を、本間秀一代表を始め、札幌の鈴木陽子(旧佐藤)、作間妙子(旧武田)、旭川から清水鈴子(旧鶴橋)等四十五名が集り、音信不明であった桐山登、松崎春江(旧沖本)大原登久子(旧楠本)等が、

三十年ぶりに出席され、昔の話に花が咲き乱れ、行方不明者の消息も多数知る事が出来、三十周年記念の一つである名簿作成も、一応出来上った。

又本年は、卒業三十周年に当たり、当初、札幌近在中心の同期と合同で、帯広の十勝川温泉で開く予定でしたが、日数の調整がつかず、札幌地方は、十一月三日、定山溪ホテル鹿の湯で、山本敏、福田隆三、森田幸子(旧安達)高後実知子、小川多恵子等が、幹事となり、遠くは、草加市の安達麗子(旧鈴木)市川市の清水清子(旧荒川)、釧路七名、帯広、赤平、恵庭、室蘭、苫小牧各地から、三十八名が集



い、中村幸子(旧阿部)が用意して来た学生服、セーラー服姿型の頭の部分から、顔を出

して、自己紹介から合会が始めました。

どの顔も卒業以来の人が、大多数で、お互に氏名を確かめ合う風景が、あちらこちらで見られ、それを追って、森田、高後幹事は、スナック写真におさめておりました。

事務局として、同窓会館建設の経緯を、「くまざさ」を配り、逐次説明し、建設用地も現在地では、狭いとの学校側の見解で、候補地を探していた処、緑ヶ岡のゴルフ場に決った事で、やっと湖陵のイメージが、保たれる事に一同、ほっとした様子でした。

湖陵高校、同窓会館建設に動きはじめるのは、六十一、二年頃ではないかと云う思惑から、寄附募金もその頃を、目標にしました。

卒業三十五周年の六十四年には、校舎、同窓会館も建設されていると信じつつ、十勝川温泉に於いて同期会を開き、その足で、同窓会館を見学する予定に決しまし



た。

四日夜、三日に、どうしても定山溪に来られなかった、福田隆三、山鼻教会の沢田実、牧師、野口トク子(旧松山)、西山早智子(旧園田)等と共に、ススキノの、ヨークマツザカヤ前のススキノビル七階で、早川節子(旧藤田)の店スナック「ハヤカワ」で、有志のみで、幹事の皆様方の慰労会を開き、五年後の三十五周年記念には、帯広市役所の松木亮次幹事のもと、十勝川温泉に、参集する事を、約束して来しました。

昭和五十九年十一月

(荒井 有玄)

御卒業・御入学の
晴れの日を
歴史の1ページに...

釧路市幣舞町2番2号

株式会社 吉井写真館

代表取締役 吉井 祥 朔 (湖陵18期)

電話 41-4798番

事務局だより

同窓会館建設準備着々と進行中

先輩、後輩、同輩そして朋友が相集い同窓会館なるもので旧交を温め、古き時代の感慨に浸りながら、またそこから新しい時代に何かを創造していくことへの語らい。このような夢を幾度見たことであろうか。このような皆んなの願いが校舎の改築を間近に控えまさに現実になえられようとして

昨年、校舎改築期成会会長である鰐淵市長が激務の中貴重な時間を割いて副知事に陳情した結果、

六十年度において調査費がつきやうな明るい材料が見られるようである。したがってこのような状態から判断して校舎の改築は六十二年の春頃ではないかと推測される。同窓会としても六十年度中に募金帳（すでに実納されているものもありま）を完成させ、六十一年度からは集金体制に入り校舎改築に歩調を合せて同窓会館建設着工に踏切たいと考えておりますので是非会員皆様の絶大なるご支援をお願い申し上げます。

会務報告

○八月 昭和五十九年度総会並びに懇親会開催。

「くまざさ」十号発行

○十月 校舎改築陳情のため、同窓会から組村会長他二名出札

○十一月 第五回、同窓会主催記念講演会開催（二年生対象）講師には、本行

寺住職菅原式也氏。

○二月 十勝支部の同窓会から招待を受け、本部より豊島・徳田両副会長が出席する。

○三月 「くまざさ」第十二号発行。

※ 年四回「役員会」を開催し、総会及び同窓会の事業運営についての協議を行う。

われらの大先輩
坂下忠勝氏（釧中十六期）

からの便り届く

昨年、暮に、釧中十六期で、前釧路市教育委員長でありました坂下先輩から、組村会長のところへ、近況の便りが入りました。時期的に多少、遅くなったのですが、掲載します。

前略

釧路は寒いようですね。こちらは、予想どおり暖国で、まだ最低気温が永点下になったのが一度だけで、それもマイナス一度です。既に花類は春を待たずに、椿桜、緋寒桜が三分〇四分咲き、水仙はもう殆んど満開をすぎました。今迄の釧路との余りの違い様に驚きます。送別会の折、貴兄が言っていたとおり、本県の東海道寄りはまだしも、伊豆半島に至っては、まさしく「はき」がないというか、「のんき」というか、折にふれて強く感ぜられます。もともと、伊豆半島は、平地がほとんどなく、山——坂が海に落ちこんでいるので、産業が必然的にないことになるからでもありましよう。みかん、お茶なども自家用に毛の生えたぐらいで、三島や沼津方面の東海道線近くに行かなければ出荷するほどの量はないようです。

正月に、三島大社、箱根神社に詣りましたが、箱根で今年始めて雪をみました。その雪をみた途端遠くふるさと釧路が恋しくなりました。友達も大分出来て、楽しくいろんなことに参加させて貰っています。

中略

静岡県は勿論ですが、この伊豆地方も歴史として勉強すると面白いところですので、ボチ／＼関係の書籍を買い出し、読み始めました。何か、全くまとまりない事はかりを乱筆乱文ですが、ご無沙汰のお詫びに代えて、思いつくまま、近況などしたためました。どうぞ、寒さを克服して、公私ご尽力下さい。

連絡先

〒四三〇一三 静岡県伊東市八幡

野一〇二七

伊豆高原ゆうゆうの里

電話(五七)一五〇代三〇〇番

内線 三六番

あとがき

今冬は、寒さがきびしかった上に、ずいぶん大雪の続く年であった。内陸地方の雪降りに似て、風情を越えたいきびしさを感じた。釧路の冬も様相が変わってきたのだろうか。ともあれ、冬の霧あり、その結果の霧氷が心をなごませてくれた。

今回は、寄稿していただいたものを記事にさせていただきます、大変助かった。卒業期によって、それぞれ同期会が持たれ、また会の運営にも努力と工夫があり敬服した。会報「くまざさ」の発行も十一号と二ヶ台になったが、内容の充実を考えると、卒業期のちがう多くの方々からの寄稿をお願いして、よりよいものにしていきたいと考えている。是非ご協力いただきたい。寄稿先：釧路市富士見一六一労働事務センター内 湖陵同窓会事務局宛

今春、湖陵を卒業する生徒は四二六名とのこと、従ってわが同窓の仲間は、総数で一七六二八名になる。(豊)

編集にたずさわった人
中川 邦雄・徳田 広
関口 政司・豊島 弘道